

# 2016年までの英文景観評価研究における回答者の属性の変遷

## Trends of respondents' attributes affected to landscape appreciation until 2016 in the journals published in English

\*青木 陽二<sup>1</sup>、熊谷 圭介<sup>2</sup>、劉 淑恵<sup>3</sup>

\*yoji aoki<sup>1</sup>, Keisuke Kumagai<sup>2</sup>, Shu-huei Liu<sup>3</sup>

1. 放送大学、2. 長野大学、3. 国立高雄師範大学

1. Open University of Japan, 2. Nagano University, 3. Kaoshiung Normal University

はじめに

心理測定法を用いた景観評価は、Peterson (1967) によって開拓された。このような研究は1970年代から1990年代にかけて普及した。そして、最近、そのような研究は再び増加する傾向があります (Aoki 2014)。そして、最近の研究の動向は、このような研究動向の問題に焦点を当てている (Aoki 1999、Liu and Asami 2002、et al.)。回答者は景観現象の最も重要な要素であった (図1)。環境に観察者がいなければ、景観現象は起こらず、ただ、自然現象がそこに存在します。したがって、観察者の存在が景観現象の始まりです。2016年までの研究で、様々な属性が観察者として用いられ、その影響が景観の心理的反応として調べられた。

観察者の属性とその認識

風景に対する人の知覚能力による差は、様々な研究分野に広がるので議論することは、ここではできない (青木、北村2001)。回答者の属性には2つのタイプがあり、まず、社会的属性がある。これは、国家または民族を指す。そして第二には、個人的な特徴を表す。個人的な特徴は、まず生来の特徴である、性別、年齢を示す。また、後天的に得られた特徴、例えば、教育、職業、社会の役割、趣味なども示す。そして、判断する場所の条件として、環境条件、生活行為、訪問などの経験の種類を指す。1968年以降、さまざまな属性の議論が行われた。

人間社会的属性 (表1)

社会的属性については、西側諸国の間で最初に検討された。その後、彼らは西洋人と東洋人の比較に焦点を当てた。また、人種グループの違いも調べた。最近では、国家のアイデンティティも多く調査されている。詳しい履歴は以下の通りである。

Zube and Pitt (1981) は、民族 (ユーゴスラビア、西インド諸島および米国)、Buhyoff et al. は Black and White を用い、Yang and Kaplan (1990) は、デンマーク、オランダ、スウェーデン、アメリカの間の差を報告している。Tips and Savasdisara (1986) はアジアとヨーロッパの違いを調べた。Kaplan and Talbot Westernell、Yu (1995) は中国と米国の差を、Newell (1997) は米国、アイルランド、セネガルの差を報告した。

最近の調査では、Beza (2010) はSherpaによる山岳民族の好みと、Falk and Balling (2010) がナイ

ジェリアの子どもを調査したと報告している。Petrova et al. (2015) は、ロシア人と日本人の間の自然の景観に対する味の違いを報告した。これは、国境を挟んで少ない相互交流によって形成された異なる文化的背景の最初の比較であった。

#### 個人的属性 (表2)

個人属性では、まず、回答者の生活体験で得られた属性が調べられた。そして、年齢や性別など生来の属性が調査された。そして、最近、その場での居住によって得られた生活環境や生活行動の影響について調べられた。研究動向の詳細は以下のとおりである。

Lansing and Marans (1968) は大学生や計画者の差を調査し、Winkel (1969) は収入や教育の影響を調べた。Zube (1973) は管理者と計画者の差を、Peterson (1974) は管理者と利用者の差を調査した。Buhyoff et al. (1978) は専門的経験の影響を調べた。Micia (1979) は、性別の影響を、Nieman (1980) は行動の親和性の影響を、Wellman and Buhyoff (1980) の地域への親和性の影響を、Balling and Falk (1981) は年齢の影響を報告した。Aoki(1983) は、古い住民と新しい住民の違いを見出した。Schroeder (1983) は、自然愛好家の影響を、Kaplan、Eugene and Helbert (1987) は野生花愛好家の影響を、Tips and Savasdisara (1986) は信仰の影響を報告した。Zube (1987) は、現場における経験の有無の影響を、Brange、Chenoweth and Baman (2000) は、職業としての農業の影響を報告した。Lange (2001) は素人と専門家の違いを見出した。

最近の研究では、Adevi and Grahn (2012) が生息地の地形条件 (沿岸または森林) の影響を報告し、Howley、Hynes and Donoghue (2012) は親類の農業の影響を見出し、Bratman (2015) は自然体験の影響を報告した。

世界のデータを入手する利便性のために、研究方法としてインターネットの利用が増加している。しかし、その答えの信頼性の問題はまだ研究中である。

謝辞：1983年のHull大学のJay Appleton教授の示唆により、風景評価に関する研究を開始した。また、ここで報告した世界中の多くの論文から学んだ。各位に感謝している。

#### 参考文献

Aoki, Y. (1999) Review article: Trends in the study of the psychological evaluation of landscape, *Landscape Research* 24(1), 85-94.

Aoki, Y. and Kitamura, S. (2001) Ontogenic and phylogenetic evolution of the human appreciation of the landscape, 38th IFLA World Congress 2001, P114-122.

Aoki, Y. (2015) A Historical Review of Landscape Appreciation Studies published in English Journals until 2013, *J. of Environmental Information Science* 43(5), 115-124.

Peterson, G.L. (1967) A predictive model of preference: Quantitative analysis of the perception of the visual appearance of residential neighborhoods, *J. of Regional Science*, 7(1), 19-31.

